

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 4月 20日

事業所名 Plus+days 園校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	部屋は広めにつくられており、どの部屋で活動を行っていても子どもにも目が届くところに職員が配置されているように心がけている。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	最低人員よりも多くの人員を配置し、手厚く子どもを支援できる体制を取っている。	放デイ児童の増加に伴い、今後送迎時など手薄になる時間帯が出てくると予想されるため、より手厚い体制に努めていきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	80%	20%	階段に手すりをつけている。ドアノブを握りやすい形のものに変える等の工夫を行っている。外階段が急なため、職員が手をつなぐ等して安全に上り下りが行えるよう工夫を行っている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%	毎日振り返りを行い職員の発言の場を作っている。社員は自己評価の設定と振り返りを毎月行っている。	パートタイムスタッフに対しては十分に行っていないため、改善していきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	年に1度の事業所評価の結果を社員に共有し次に生かすことができるようにしている。	パートタイム職員への周知方法について考えていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	20%	ホームページで公開している。	会報にも案内を載せるようにしていきたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40%	60%		外部評価はまだ実施されたことがない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	研修に参加し、その後社員に共有している。管理者から、資質向上に繋がると思われる研修会の案内を行い、個々で研修に参加している。入職時には統一内容の研修を行い、職員の質の均一化と向上に努めている。	個々が参加した研修についてその研修に参加できなかった職員にも内容を広げていきたい。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	指導員が普段のようすなどを管理者に伝え、計画を立てている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	60%	20%		一時期使ったが業務量の関係で毎回行っていない。効率の良い方法を探していきたい。記録を作成する期限を定めて、抜けもれなくできる仕組み作りを行う。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%	イベントは話し合いで決めている。学習は個々で計画するが、結果等については情報共有を行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	80%	20%	他のスタッフが行った支援内容を振り返り、次の支援と同じ内容にならないようにしている。スタッフ間で声掛けを行っている。土曜日イベントが固定化しないよう工夫している。担当のスタッフを変えて行っ	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	20%	壬壇百の長時間療育支援を行える環境ではおでかけ等の時間をかけて行う活動を取り入れ、より児童が達成感等を感じられるようにしている。長期休暇中の療育提供時間に変更がないため大幅に内容を変えることはできないが、可能な範囲で児童のようすにあわせて内容になるよう工夫を行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	自由時間、机上の時間と区切っている。利用人数や利用児によって変えている。集団や小集団での活動に参加できる時間を増やしていくことを目標に、児童それぞれの実態に即して個別活動の時間が増やす等の調整を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼をしてスタッフ間で共有している。毎朝朝礼をすることでその日来所予定の子どもたちのようすや支援内容をスタッフ間で共有している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	終礼をしてその内容を記録している。終礼の際振り返りを行い、改善点等についてミーティングを行っ	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	学習の内容は記録を取っている。	学習以外の出来事は記録が取れていない。社員で行う終礼で検証した内容はパートタイムにも共有するようもれなく記録を残すようにする。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	管理者が行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	80%	0%	活動のテーマはあらかじめ決めた上で、複数の組み合わせで行うよう心がけている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管が参画し、そこで話された内容を事業所職員に共有している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	その都度または振り返りで行っている。 トラブルが発生しないよう児童の利用日を学校に共有しているところもある。	抜けがないようになるべくすぐに伝える、共有するように心がけていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	40%	40%	現在その対象となる子どもがいない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	80%	20%	支援者会議の場で共有を行うことがある。	園から就学先に向けての情報共有は保護者を介して行うことが多く、事業所から進んでは行っていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	60%	40%		まだ実例がない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%		センターの研修には前年度参加できなかったため、次年度は参加していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	20%	80%		感染症が流行っているため積極的に行っていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	40%	20%		地域のコミュニティにはあまり参加できていないため、広く参加しよう努めていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳を使い行っている。 送迎時やお電話等でも事業所でのようすをお伝えしている	保護者によってできている度合いに差があるため、なるべく全員に行えるようにしていきたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	40%	60%		アドバイスはあるがトレーニング等の支援まではできていない。次年度行っていきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	0%	0%	管理者が行っている。契約時や質問があったとき、各家庭の状況の変化があったとき等に説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	その場でできることやすぐにもち帰り相談した上で返答している。 相談があった際はスタッフ間で共有し、助言や支援について話し合い場に応じて時間をとって保護者と話すようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	保護者から進学について等の相談を受けた際は、了承をいただいたうえで個別に近い境遇の保護者に連絡、相談をし、事業所が間に入って情報の伝達等を行っている。	保護者同士の連携の場を設けることができていないため、次年度取り組んでいきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	体制については契約書にもその手順を示すことで周知を行っている。苦情があった場合には共有した上で対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	月に一度療育のようすを書いた手紙を発行している。 SNSで活動のようすを配信している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	鍵付き書庫に収納している。 従業員全員と個人情報にかかわる誓約書を取り交わしている。	プリントなどをそのままにしまっていることがあるため注意していきたい。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	相手に合わせた伝え方を工夫している。 視覚的に理解しやすいように、室内にはあらゆる場面に合わせた写真カードを用意し、必要に応じて使用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20%	80%	地域商店へ買い物活動に出かけたり、事業所周辺のゴミ拾い活動を行う等して交流の機会を設けるようにしている。	地域活動にはあまり参加できていない。コロナが落ち着けば行いたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	各種マニュアルは会社で統一したものを作成している。	保護者への周知が十分でないため、今後周知の徹底を行ってきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80%	20%	年に2度行っている。	平日の利用児に対しては行えていない。平日利用児に対して周知する方法を考えていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	年に2回の研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	身体拘束が必要な利用児はいない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80%	20%	医師の診断書ではなく、保護者記入の書類により対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	月に2枚以上と記載する目標を立てて取り組んでいる。記載があった際には、終礼と職員の共有ノートで共有を図っている。	目標に対して達成できていない月があるため、より一層意識を高めるようにしていきたい。